かごしま林業普及だより

第 18号
（令和7年7月）

目　次

1.　かごしま椿資源利活用促進協議会総会の開催　・・・【鹿児島指導区】　１頁
2.　タケノコメンマの先進地研修を実施　・・・【南薩指導区】　１頁
3.　放置竹林のタケを活用したイカシバ作り　・・・【北薩指導区】　２頁
4.　森林作業道研修会を開催　・・・【姶良・伊佐指導区】２頁
5.　ＱＧＩＳ操作研修を実施　・・・【大隅指導区】　３頁
6.　種子島地区で再造林技術研修会を開催　・・・【熊毛指導区】　３頁
7.　かごしま林業大学校が開校　・・・［普及指導・育成部］４頁

ホームページで試験研究や
林業普及活動、森林環境教育
などの取組を紹介しています！

鹿児島県森林技術総合センター
普及指導・育成部

鹿児島指導区

かごしま椿資源利活用促進協議会総会の開催

総会開催状況

鹿児島地域では，地域資源を活かした特用林産物として椿の振興を図っており，椿の資源量の把握や椿林の管理，椿実の収穫に必要な人材の確保等の様々な課題を解決し，椿資源の利活用の促進に関する施策を総合的に推進するため，令和６年６月に椿関係者による「かごしま椿資源利活用促進協議会」を発足し，県の地域振興推進事業を活用しながら，様々な活動を行っています。

令和７年６月４日(水)，協議会会員である椿実生産者，製油業者，椿資源利活用関連の販売業者及びオブザーバーの行政関係者（県，市村）が出席し，令和７年度の協議会総会が開催されました。

豊凶の差が激しい椿実にとって優良母樹の確保が重要なことから，令和６年度は優良母樹の選定調査を開始したほか，いちき串木野市及び三島村硫黄島で育苗・剪定技術講習会を開催しました。

また，「かごしま椿」の認知度向上を図るため，鹿児島市のマルヤガーデンズにおいて，初の椿づくしのイベント「かごしま椿マルシェ」を開催し，「かごしま椿」の認知度向上を図る取組を行いました。

令和７年度は，森林技術総合センターにおいて「安定した椿油増産のための椿の栽培技術に関する研究」が開始されたことから，センターとも協力しながら優良品種の選定や，椿油関連商品の高付加価値化に向けた講習会や椿油の成分分析の実施，大都市圏での「かごしま椿」の認知度向上イベントの開催等，椿実の増産と「かごしま椿」が広く知れ渡るよう関係者一丸となって取り組んでいきたいと思います。（山之内美穂）

南薩指導区

タケノコメンマの先進地研修を実施

南九州市の知覧町たけのこ振興会では，４月25日（金)にタケノコメンマの先進地研修を行いました。

今回の研修は，昨年の総会で，地域の竹林で生産されるタケノコの利用について，振興会の新たな取組としてメンマの加工製造を行いたいとの相談があったことから，出水市で穂先タケノコを利用した国産メンマづくりの取組を行っているたけのこ生産者「シンタク」さんへ視察研修を実施しました。

当日は５名の会員と研修に伺い，収穫した穂先タケノコの下処理の方法やゆで方，塩蔵の方法について見学したほか，下処理について，視察に参加した会員も研修後すぐに取り組めるようにタケノコのカット作業をシンタクさんから指導を受けながら体験させていただくなど，実技も含め有意義な研修になりました。

研修後，参加した会員の方々は，早速，地元の竹林から穂先タケノコを切り出し，少量ではありますが，地域の加工施設で穂先タケノコを下処理し，塩蔵まで行いました。

今後は，塩蔵した穂先タケノコを利用して商品の試作検討を行う予定としていることから，県外でのメンマ加工の研修や情報提供等を行いながら，たけのこ振興会の新たな取組として定着できるよう支援を行っていきたいと考えています。

（山下幸一，長谷川徳幸）

放置竹林のタケを利用したイカシバ作り

北薩指導区

５月１日(木)に 阿久根市が「海・里・山」の３つの「たから」の連携により，子供達や高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進める「たからのまちマネージャー事業」の「イカシバ作り」が行われました。

イカシバとは，イカの産卵場所を確保するため，主に木の枝などを束ねて海底に沈め，イカが卵を産み付けやすくする人工的な産卵床のことです。

通常は，木の枝などを束ねて海底に沈めるのですが，阿久根市では，放置竹林の解消と漁業資源の増殖の一石二鳥を狙って，昨年度から木の枝に加えて，放置竹林から伐り出した「コサンダケ」を使ったイカシバ作りも行っています。

イカシバ作りは，林業関係者と漁業関係者が共同で作業を行いました。

①林業関係者が市内の放置竹林からコサンダケを伐り出します。

②コサンダケは，先端の約1.50mを10本程度束ねて紐で結びます。（結ぶ紐は，必ず枝にひっかけます。）

③紐で結んだコサンダケを漁船に積んで漁協関係者が阿久根市沖の海に沈めます。

昨年度設置したコサンダケのイカシバは，雑木のイカシバより早く産卵が見られた等の良好な結果が得られたようです。

林業関係者と漁業関係者が一体となってこのような取り組みを今後も続けることで，放置竹林の解消と漁業資源の増加が図られることはもちろんのこと，阿久根市が目指す「子供達や高齢者が安心して暮らせるまちづくり」も着実に達成できると感じたところでした。（岡﨑博樹）

森林作業道研修会を開催

姶良･伊佐指導区

室内研修

室内研修

森林作業道の作設を推進するため，７月25日（金）に姶良・伊佐地域森林・林業活性化センター主催で，森林作業道研修会を開催し，管内の森林組合，林業事業体から１５名の参加がありました。

研修内容は，①森林作業道の作設指針，実施基準，関係要領の解説及び留意点　②現地測量及び測量結果に基づく図面作成　③写真管理　④設計・積算方法　⑤土砂流出対策等について講義をしました。

現地測量は，天候不順のため実施できませんでしたが，あらかじめ準備していた測量結果を基に，手書きで図面を作成してもらいました。図面作成に悪戦苦闘されている方もいましたが，パソコンのエクセルで平面，横断図面を作成するシステムの紹介も行いました。

作設方法や実施基準，設計・積算までの一連の内容について，説明を行いましたが，皆さん熱心に受講されていました。

今回の研修等を通じて，繰り返しの使用に耐えうる丈夫で簡易な森林作業道の開設が進み，地域森林の整備に繋がればと考えています。（上敷領芳広）

ＱＧＩＳ操作研修会を実施

大隅指導区

近年，ＩＣＴ技術は日々進歩しており，林業分野においても多くのＩＣＴ技術が導入され始めています。

その中で，ドローンで撮影した写真を活用した施業地の作図及び面積の測定等は，従来の現地でのコンパスやトゥルーパルスを使った測量及び平面野帳作成の手間が省けるなど大きな省力化が期待されます。

一方で，ドローンや市販のＧＩＳソフトの購入費などの初期投資が高額になることなどが課題となっています。

ＱＧＩＳは無償で公開されていることから，初期投資が軽減され，性能も市販のＧＩＳソフトと遜色がない反面，フリーソフトのため，操作方法等の技術指導が受けられないことがネックとなっています。

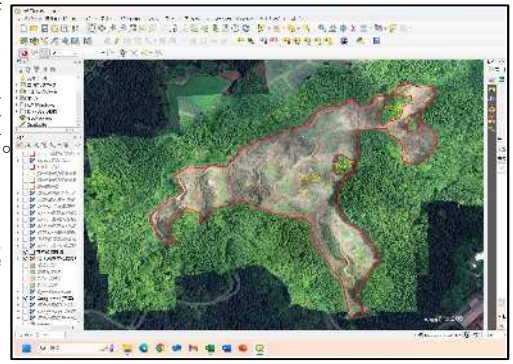
大隅地域振興局では，ドローン撮影写真による造林補助申請を推進しており，林業普及指導員が森林組合や事業体に対して，ＱＧＩＳ操作研修会を定期的に実施しています。

ＱＧＩＳソフトは，様々な機能を有しており操作が煩雑な面もあることから，研修ではドローンで撮影した施工地の写真データを基に植栽区域を作図，面積測定を行う等の基本操作を中心に説明しています。

森林組合等の若手職員はすぐに操作方法を憶え，６月末に早速ドローンで撮影した写真を使用した造林申請を行ってきました。

ＱＧＩＳについては，造林申請だけではなく，森林経営計画を作成する際にも強力なツールとなるため，今後もドローン操作に加えＱＧＩＳの操作研修会を継続して行い，ＩＣＴ技術の普及を図って参りたいと考えております。（鶴田正輝）

研修状況



ＱＧＩＳ操作画面

種子島地区で再造林技術研修会を開催

熊毛指導区

種子島地区では，これまで間伐を主体とした木材生産が行われてきましたが，森林の多くが利用期を迎えており，今後，主伐による木材生産の増加が見込まれます。

そこで森林資源の循環利用を図るため，主伐後の再造林推進に向けた機械地拵えによる主伐・再造林一貫作業の技術研修会を７月１日（火）に開催しました。

研修場所は，昨年度の地域振興推進事業により管内事業体が初めて主伐地における機械地拵えを実践した施行地で行いました。

はじめに，一貫作業のメリット，効率的な機械地拵えの方法や棚積みのサイズ等について説明を行った後，一貫作業を先進的に取り組んでいる曽於市森林組合の取組について紹介しました。参加者は，「作業前に地拵え作業を想定した集材箇所を設定した後，それを作業班全員で共有し，伐採から搬出までの各工程で連携すること」が重要であることなど作業にあたってのポイントを確認しました。

最後に施行箇所を確認しながら，実際に機械地拵えや植栽作業に従事した現場技能者から苦労した点や工夫した点などの意見交換を行いました。

今後，種子島地区においても，伐採作業と造林作業を連携した一貫作業により再造林コストの低減が図られ，主伐後の再造林推進につながるよう，引き続き現場技能者の技術の向上と定着に向けて支援していきたいと思います。（富元雅史）

地拵え実施箇所

研修の様子

かごしま林業大学校が開校しました。

普及指導・育成部

令和７年４月10日にかごしま林業大学校が開校しました。第１期生の13名は，今年３月に高等学校を卒業したばかりの18歳から社会人経験者の53歳までと幅広い年齢層で，ほとんどが林業の未経験者です。

研修では林業の基礎から最先端に至る幅広い知識や技術，林業労働安全意識を１年間で身に付けるほか，林業に就業する上で必要なチェーンソー等の特別教育や車両系建設機械運転の技能講習等を13種類取得できます。

当部では主に各科目の基礎的な座学を担当しており，内容は森林管理（造林・間伐等），素材生産，立木調査，周囲測量，特用林産，スマート林業（ICT），除間伐実習など様々です。講義は林業が初めての方に基準を合わせて専門用語等を解りやすく説明していますが，形状比？密度管理図？収量比数？彼らにとっては未知の世界だと思います。

座学では睡魔との戦いに負けそうな時もありますが，森林調査やチェーンソー等の実習では，生き生きと作業に取り組み，体も逞しくなった様に感じられます。

開校から３ヶ月になりますが，林大どうですか？訪ねると，「実習が大変な時はあるけど，毎日楽しいです」との声が聞かれました。嬉しい限りです。

真夏の実習では熱中症対策を行いながら，彼らが近い将来，林業担い手の即戦力となるよう卒業するまで隣の林業大学校運営班とタッグを組んでしっかりサポートして参ります。（伊佐敷和孝）

講義の風景

実習（森林調査）